

第69回ブレイクスルー研究会議事録

「東工大における卓越した研究者育成を目指す取組

—指定国立大学構想と基礎研究機構」

1. 日時：2019年8月19日（月）18時から20時
2. 場所：政策研究大学院大学 4B研究会室
3. 参加者：10名
4. 講師：大竹 尚登氏（東京工業大学 科学技術創成研究院 副研究院長
未来産業技術研究所教授 基礎研究機構 広域基礎専門塾塾長）
5. 内容：
 - 1) 東工大の改革の概要
 - ・ 3つの柱 ①教育改革—従来の学部・学科（3学部23学科）、従来の大学院・専攻（6研究科・45専攻）を6学院 19系にした。
6学院（理学院、工学院、物質理工学院、情報理工学院、生命理工学院、環境・社会理工学院）+リベラルアーツ研究教育院
 - ②研究改革一部局を廃止し、科学技術創生研究院（研究ユニット（現在11ユニット）、研究所（4研究所）、研究センター（3研究センター：研究ユニットから昇格）
*研究ユニットは5年間
*研究所には「未来産業技術研究所」もある。
 - ③ガバナンス改革—帰納的な運営体制（戦略統括会議、情報活用IR室、学長による部局長の指名、人事ポストの全学管理、スペースチャージ制導入）
 - ・ 中期計画—2016年から第3期中期計画
 - ・ 運営体制—「組織図」（省略）
 - ①企画立案—企画立案執行組織として「広報・社会連携本部」「教育・国際連携本部」「研究・産学連携本部」「キャンパスマネジメント本部」に再編・設置
 - ②学長室—学長室に戦略統括会議（2017年4月に企画戦略本部から改称）を筆頭に、人事委員会、情報活用IR室、学長補佐室、学長アドバイザーボード、Tokyo Techアドバイザーボード（2017年4月に国際アドバイザーボードから改称）の6つの組織設置。
 - ③部局長の専攻
選挙制から学長選考。
 - ・ クォーター制—1年間を4期、授業は90分

2) 2030年に向けた将来構想

・ミッション：科学技術の新たな可能性を掘り起し、社会との対話の中で、新時代を切り拓く。

①学生本位の教育体系の進化（卓越した大学院によるリーダ能力の養成、産業界との連携を強化した博士課程教育の実施等）

②科学技術の最前線の開拓（重点分野（新元素戦略、統合エネルギー科学、デジタル社会デバイスシステム）の強化、基礎研究機構の新設等）

③新たな知の社会実装の推進と定着（「Tokyo Tech Innovation」の新設、東工大発ベンチャー100社の実現等）

・「未来社会DESIGN機構」の新設

①個と組織の多様性の拡大、②「ちがう未来」に向けた挑戦ワークショップ等実施。

3) 基礎研究機構の新設

・ミッションー社会的な期待や責任を自覚しつつ、独創的萌芽的な研究を推進できる人材を育成

①専門基礎研究塾：

細胞科学分野（大隅栄誉教授）13名

量子コンピューティング分野（西森教授）2名

各塾の所属し研究に集中。交流会や談話会実施。

研究テーマを深く考える

②広域基礎研究塾：

所属は各学院のまま、3ヶ月以上在籍。

特定分野にとらわれず個人研究の原点を構築する。

活動概要：

オリエンテーション／面談／研究分野発表会／WS「未来社会と自身の研究との繋がりを考える」未来社会DESIGN機構と共催、共同作業／大隅先生を囲む会等／研究テーマ設定発表会。

(質疑)

- ・広域基礎研究塾でのテーマ開発の実際の変化とレベルアップ状況
- ・広域基礎研究塾での3ヶ月の感想
- ・世界トップを狙う重点分野（ブランド基盤）
- ・基礎研究のポートフォリオ

- ・テーマの商品化／事業化までの工程
- ・日本の研究開発とVC等ファンドとの連携強化策

(文責：主査 旭岡叡峻)